

資料3

(公財) とよなか国際交流協会の 取り組みについて

2023年度 第3回 図書館協議会

事業主任 山本房代／ 事務局長 山野上隆史

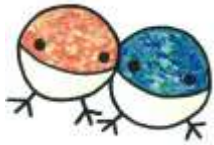


本日の流れ



1. とよなか国際交流協会概要
2. 豊中市に暮らす外国人市民について
3. 主な取り組みについて
4. 図書館との協働について
5. 「豊中市立図書館における多文化共生」について

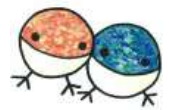




1. とよなか国際交流協会概要



1. とよなか国際交流協会概要



【設立】

1993年 「財団法人とよなか国際交流協会」として
「とよなか国際交流センター」とともに設立

1999年 基本理念

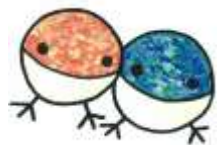
[市民の主体的で広範な参加により、
人権尊重を基調とした国際交流活動を地域からすすめ、
世界とつながる多文化共生社会をつくる]

2010年 エトレ豊中に移転

2012年 「公益財団法人とよなか国際交流協会」

2016年 「とよなか国際交流センター」指定管理者 (※現在2期め)





2. 豊中市に暮らす 外国人市民について



2. 豊中市に暮らす外国人市民について



- 全国

322万3,858人（2023年.6月現在）総人口の約2.6%

※2022年12月末から14万8,642人増加

- 大阪府

28万5,272人（2023年6月現在）府の人口の約3.2%



2. 豊中市に暮らす外国人市民について



- 豊中 約7,150人（2024年 2月末現在）

豊中市の人口の約1.8% 約39万8600人

- 98カ国

（上位10カ国…①中国，②韓国・朝鮮，③ベトナム，④フィリピン，⑤ネパール，⑥インドネシア，⑦米国，⑧台湾，⑨インド，⑩ミャンマー）

- 約半数は長く暮らす人、長く暮らす人は増えている

（永住者，特別永住者，日本人の配偶者等，定住者，永住者の配偶者等 の在留資格の人が半数以上）



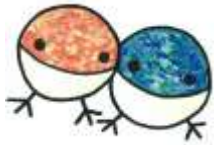
2. 豊中市に暮らす外国人市民について



統計にはあられない外国ルーツの人について

- 日本国籍だが外国ルーツの人（親のどちらか一方が日本人、日本国籍取得者、幼少期から海外で生活してきた人、など）
- 無国籍の人



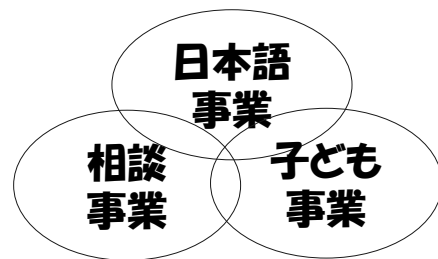


3. 主な取組みについて



3. 主な取組みについて

- 約 30 事業
- ボランティア；約 350 人
- 毎年、協会事業に関わる人
たち（ボランティア、参加
者、学校教員、職員など）
とともに
- 「ATOMSふりかえり会」を
実施



「女性」と「子ども」

ばづくり・ひとづくり

ふりかえりの視点



①双方向性

～一方向的な支援ではなく、外国人の声を聴く場にもなっているか。支援者側にも気づきや学びがあるか。

②ボトムアップの組織づくり

～参加するみんなが活かされる、民主的なプロセスでつくられる組織

③居場所

～外国人が安心して居ることのできる場所をつくる（消費&排除されない）

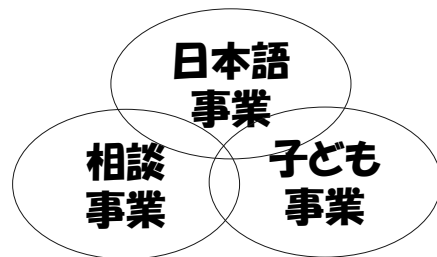
④エンパワメント

～参加者がもともと持っている力を活動を通して引き出すことができているか



3. 主な取組みについて

- にほんご活動事業
→日本語交流活動／おやこでにほんご
- 相談サービス事業
- 子どもサポート事業



にほんご活動事業



- 「教室型」ではなく、「交流型」の日本語活動
- 日本語を学ぶだけでなく、生活情報を得たり、
ライフラインとなる「ひと」との出会いの場

日本語交流活動

おやこでにほんご



にほんご活動事業



- | | | |
|------------------|-----|-------------|
| ◆もっともっとつかえるにほんご | 月曜日 | 10:00～12:00 |
| ◆とよなかにほんご・木ひる | 木曜日 | 13:30～15:00 |
| ◆つながれとよなか オンライン! | 木曜日 | 19:00～20:00 |
| ◆とよなかにほんご・金あさ | 金曜日 | 10:30～12:00 |
| ◆にちようがちゃがちゃだん | 日曜日 | 10:00～12:00 |

- | | | | |
|---------|-----|-------------|--------|
| ◆千里にほんご | 木曜日 | 10:00～11:30 | @千里コラボ |
| ◆庄内にほんご | 日曜日 | 13:00～15:00 | @庄内コラボ |



外国人のための多言語による相談サービス事業



- 多言語相談スタッフ: その国・地域の言葉を母語とする外国人女性
- 臨床心理士/専門相談員

◆月・火・木・金 11:00~16:00 土 11:00~16:00

中国語、韓国・朝鮮語、タイ語、インドネシア語

フィリピン語、英語

ベトナム語（2015年度～）ネパール語（2018年～）



子どもサポート事業



- 多文化子ども保育「にこにこ」：0歳～未就学
- 子ども母語教室（中国語・スペイン語）：小学生・中学生
- 学習支援・居場所づくり「サンプレイス」：小学生～高校生
- 若者支援「若者のたまりば」：高校生～39歳まで



活動から見えてくるもの

自信を取り戻した子どもたち・女性たちの姿

- ・ 母語・母文化の学習を通じて、自分のルーツ、親、自分自身に誇り
- ・ ロールモデルとなるピアサポーターの存在、仲間との出会い
- ・ ありのままの自分でいられること、ルーツをさらけだせることの大切さ

日本社会の「壁」

ことばの壁

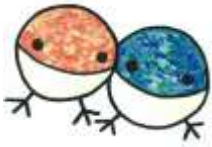
- ・ 母語・母文化継承（母語保障）の難しさ
- ・ 生活言語と学習言語
- ・ 情報の格差

こころの壁

- ・ アイデンティティなどの悩み
- ・ 異なる文化や生活背景をもつ人に対する差別・偏見

制度の壁

- ・ 学びの場面・・・奨学金、教育制度の違い
- ・ 生活の場面・・・国籍条項、参政権



4.図書館との協働について



4.図書館との協働について（実績）



- ①おやこでにほんご
- ②展示でのコラボレーション
- ③国際交流センター内の図書の定期配架
- ④日本語交流活動
- ⑤市立図書館合同人権研修



①おやこでにほんご

◆火曜日 10:00～12:00

◆場 所 岡町図書館・庄内図書館・
千里図書館

- 2002年～「親子参加型日本語教室」（子連れで参加できる日本語教室）としてスタート
- 外国人ママの居場所
- 情報交換の場、子育てや悩みを話したり、相談できる場、友だちづくり／出会いの場（ママ友、外国人先輩ママとの出会い）

↓ 2024年～

【多文化子育て支援事業 外国人ママのための場所 おやこ〔しょうない・おかまち・せんり〕】

- ボランティアも子育て中の女性
- 子どもを連れて、地域で安心して集うことのできる場 =図書館

ママの社会参画

地域の居場所

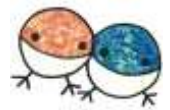
②展示でのコラボレーション

- 2023年8月26日 庄内コラボセンター1階で開催した国際理解プログラム「世界のミカタ」開催に合わせて、庄内図書館にて中国、エクアドルのコーナー展示を実施

イベントとの相乗効果/
展示のきっかけに



③国際交流センター内の図書の定期配架



- 市立図書館の多言語図書をセンターに配架 (約半年ごとに入換)
- 成人向けの話題書や絵本、母語での日本語学習書など幅広いジャンル

子どもや保護者をはじめとする
利用者の安心・安全を促進



④日本語交流活動



- 千里にほんご（隔週で千里図書館集会室を利用）
- 庄内にほんご（日曜日に開催，図書館開館/公民館窓口休館）

交流・協働の可能性∞



⑤市立図書館合同人権研修

・2022年10月

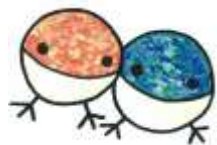
「地域の多文化共生について～
「コロナ禍における外国人市民の
生活等への影響に関する調査報告
書」より～」

協会職員が人権政策課とともに講師を務めた

【いただいた感想（要約）】

- 豊中市の外国人市民の現状（人数やコロナ禍での困りごとなど）を知ることができよかった
- 言語が通じない場合のコミュニケーションに不安があったが、“まずはコミュニケーションを取ろうとすることが大切”という話が印象に残った
- 図書館をもっと利用してもらうための工夫を考える機会となった

意識・知識の共有



5. 「豊中市立図書館における多文化共生」について



5. 「豊中市立図書館における多文化共生」について



- (1) 現状把握
- (2) 多文化サービスの充実
- (3) 拠点機能の充実



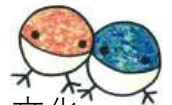
（１）現状把握



- 数の把握：外国人・外国ルーツの利用者の数／多言語図書貸出状況、図書館エリアごとの外国人市民、図書館の認知度 等
- ニーズの把握：外国人市民が（図書館に/地域に/生活に）求めるもの・一緒にできそうなこと、学校図書館や地域のコミュニティから見えてくるもの 等
- 定期的な情報交換：「にほんご活動」の見学&ヒアリング、連絡会・ミーティングへの参加 等



（２）多文化サービスの充実



- 通常のサービスや資料を利用できない、あるいは利用しにくい文化的・言語的少数者を 主たる対象とする図書館サービス（「IFLA-UNESCO公共図書館宣言2022」）
- “多文化サービスは付け足しの、あるいは別個のサービスではなく、通常の図書館サービスです。予算がついたときだけ、資料を購入して終りではなく、地域社会の実情や変化を踏まえながら、継続的にサービスを続けていくことが重要です。”（「多文化サービスQ&A」 日本図書館協会Webサイト）
- 本棚（蔵書やサイン）・広報手段の見直し

入口の充実

外国人親子向けお話し会、外国人向け図書館ツアー（カード作り、リクエスト、書庫巡り...）、出張図書館@コミュニティ

情報保障

(3) 拠点機能の充実



①行政・福祉サービスの拠点： 支援の窓口として

例えば・・・市政案内・相談窓口スタッフ、ソーシャルワーカーや子育て支援センター職員の定期派遣 等

②市民活動の拠点： 社会参画の窓口として

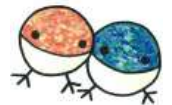
例えば・・・多言語での読み聞かせ会の定例化、外国人ゲストスピーカーによるお話会、日本語交流活動参加者とのコラボイベント 等

③啓発の拠点： 地域・世界を知る窓口として

例えば・・・一日〇〇DAY、館内美術館/博物館、多文化共生に関わる市民活動の展示、外国人・外国ルーツの人に関わる社会課題についてのテーマ展示 等



参考資料



- ・加藤佳代（2019）「＜実践報告＞当事者と共におこなう図書館の多文化サービス」、基礎教育保障学研究 第3号pp44-54
- ・阿部治子（2019）「日本の多文化都市における図書館の取り組み「多文化サービス」のあゆみと「安心の居場所」であるための提言」、『多文化社会の社会教育 公民館・図書館・博物館がつくる「安心の居場所」』明石書店
- ・「IFLA-UNESCO公共図書館宣言2022」
<https://www.jla.or.jp/library/gudeline/tabid/1018/Default.aspx>
- ・「多文化サービスQ&A」 日本図書館協会Webサイト
<https://www.jla.or.jp/committees/tabunka/tabid/901/Default.aspx>

